

A・B・C案の使いやすさや快適性など(定性的な要素)の検討

凡例
[色]：庁舎 [色]：公民館機能拡充施設 [色]：共用部

①及び②の1～4は基本方針に記載の項目。下線は、基本方針から変更した箇所を示す。

		A		B		C	
配置イメージ							
■重みづけ評価 庁舎・公民館の建替え計画について、 ◎○△の3段階評価で重要度をご記入ください		※ 進入経路については現在検討中		※ 進入経路については現在検討中		※ 進入経路については現在検討中	
①国道への顔づくり		○	国道に面して公民館が配置でき、それによって公民館の町民活動が国道から垣間見え、その賑わいが「新しい顔」となる	○	緑あふれるオープンスペースが「緑の庁舎」としての顔となる。また、オープンスペースの中に、新しい機能(WSで議論)を計画することも可能	△	既存公民館側に建物が寄る配置となり、国道18号から遠くなりやすい。また、国道側にまとまりのある駐車場を計画せざるを得ず、湯川ふるさと公園との連続性がB案に劣る
②計画の自由度		△	分棟のため、エントランスや廊下、WC等の共用部を双方に計画する必要があり、スペースの合理化や双方の連携利用などの計画が難しい等、計画の制限を受ける	◎	新庁舎・公民館が一体のため、共用部(エントランス・廊下・WC等)の相互利用ができ、スペースの合理化が可能。それによって生まれるスペースを活かすこともでき、計画の自由度・柔軟性が最も高い	○	新庁舎・一部の公民館(2,500㎡分)は一体のため、計画の自由度・柔軟性は十分あるが、B案と比べるとやや劣る。また、公民館面積が小さくなるとスペースの合理化が難しくなる
1. 平面計画の自由度・柔軟性			分棟のため、一度外に出る必要がある。ただし、庇を設けて接続させることで、雨に濡れずに往来できる。南北に細長く、庁舎から公民館への移動距離が長い	◎	一体型のため、内部廊下での接続が可能。庁舎と公民館が近く移動距離を短くできる	○	新庁舎・一部の公民館は一体型のため、内部廊下での接続が可能。ただし、既存公民館とは2階連絡通路(屋内)での接続となる
2. 庁舎と公民館の往来のしやすさ			分棟のため、施設間の相乗効果は生まれにくい	◎	一体型のため、「公民館活動が庁舎から見える」「オープンスペース等を相互利用できる」等、相乗効果が生まれやすい	○	新庁舎・一部の公民館は一体型のため、相乗効果は生まれやすいが、B案と比べると劣る。また、公民館面積が小さくなると相乗効果は生まれにくい
3. 庁舎と公民館の相乗効果の生まれやすさ			分棟のため、明確な機能区分ができ、用途に合わせた運用がしやすい	△	一体型のため、明確な区分が形成しにくく、運用が煩雑になりやすい	○	「新庁舎・一部の公民館は一体」と「分棟の既存公民館」で構成されているため、機能区分は可能だが、A案と比べると、やや明確さに欠ける
4. 庁舎と公民館の機能区分のしやすさ			機能に合わせて2棟に別れており、配置しやすい	△	庁舎機能と公民館機能の距離が近いため、音・匂い対策の工夫が必要	◎	音・匂いが出る諸室を公民館改修部分へ配置することで対応可能
5. 音・匂いが出る室の配置のしやすさ		○	機能に合わせて2棟に別れており、配置しやすい	△	庁舎機能と公民館機能の距離が近いため、音・匂い対策の工夫が必要	◎	音・匂いが出る諸室を公民館改修部分へ配置することで対応可能
③駐車場(P)の配置		△	北側にまとめることができるが、駐車場から公民館への移動距離が長い	◎	北側にまとめることができ、建物へも近い	○	病院北側と町道鶴溜線沿いに分散配置となるが、建物へは近い
④病院との関係		○	病院と庁舎の間に広場を設けることが可能	○	平面が南北に延びることで、病院との間に広場を作ることが可能	○	配置を現公民館に寄せる必要があるが、病院との間に広場を作ることが可能
1. 平面計画の自由度・柔軟性			建物が西側に寄るため、眺望を確保しやすい配置。屋根形状により浅間山が見えないため、改善が必要	△	一部の屋根の高さを抑えることで、山頂部が見えるが、改善が必要	△	一部の屋根の高さを抑えることで、山頂部が見えるが、改善が必要
2. 病院から浅間山への眺望		△	建物が西側に寄るため、眺望を確保しやすい配置。屋根形状により浅間山が見えないため、改善が必要	△	一部の屋根の高さを抑えることで、山頂部が見えるが、改善が必要	△	一部の屋根の高さを抑えることで、山頂部が見えるが、改善が必要